

ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人

祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室

責任者 織田 正道

原点に戻る、「日本一の気配り病院」

— 2024年グループ方針 —

理事長 織田 正道

2024年(令和6年)が明けたばかりの元日、能登半島地震により甚大な被害が発生しました。多くの方が犠牲となり、住民の方は今もなお不自由な避難生活を強いられおられます。我々も微力ではありますが、医師・看護師・理学療法士・救命救急士等からなるJMAT(AMAT)チームを派遣し、医療・救済活動を通じて現地の力になれるように努めて参ります。

さて、新型コロナウイルスが収束したわけではありませんが、社会的にはポストコロナに向けて確実に動き出しています。医療・介護においても、今年は、診療報酬をはじめとしたトリプル改定、さらには第8次医療計画、第9期介護保険事業計画、医師の働き方改革など目白押しです。我々は今後も時代の大きな流れを見据えながら前進していきたいと思います。

- 2024年のグループ方針として横断的に取り組むのが
1. 接遇の更なる向上(「コミュニケーション能力の向上」)
 2. 保健・医療・介護の分野にわたるDX推進
 3. グループ内事業所の連携強化・一体化
 4. グループ情報を積極的にSNS(Social Networking Service)発信
 5. 協力量から基幹型臨床研修病院の指定へ
 6. 地域医療連携推進法人の開設

特に最初に掲げた「接遇の更なる向上(「コミュニケーション能力の向上」)は、当グループの設立理念である「悩める者への光明を」に直結します。つまり我々が医療・介護を行う上で現場における原点です。医療における接遇の基本は、「思いやりの心」、「相手の気持ちに寄り添える心」です。私が鹿島に帰ってきた時、この病院を地方にあっても「田舎の病院」ではなく、どこにも負けない全国に通用する「一流の病院」にして行きたいとの思いがありました。もちろん、医療レベルでは大病院に敵わない面がありますが、患者さんや地域の人から選ばれる魅力ある病院づくりをして行こうと考えました。そこで最初に取り組んだのが「日本一の気配り病院」を目指しての接遇教育でした。その効果は大きく、患者さんや地域住民だけではなく、近隣の医療機関からも「入院が必要な患者さんが織田病院を希望される」とのこと、紹介入院が急増しました。特に医療においては、どんなに専門的知識や高度な医療技術があっても、患者さんから信頼されなければ意味を成しません。医療は信頼関係があって成り立つのです。その関係を築く基本となるのが接遇です。「思いやりの心」のこもる接遇が向上すると、スタッフ間の関係も良くなりますし、忙しい時でも相手の気持ちに寄り添えるようになります。

医療における接遇とは

「思いやりの心」、「相手の気持ちに寄り添える心」
患者さんの不安を想像して、その気持ちに寄り添い
応えることができるコミュニケーション能力。

それでは、2024年度グループ方針と各分野の目標項目を示します。

◎2024年グループ方針

住み慣れた地域で自分らしく最後まで「の実現をめざし、急性期医療から在宅まで、保健・医療・介護の各分野が、

一体的に提供できるように全分野にわたる人材育成、DXを推進し、『総合ヘルスケアシステム』の構築を図ります。

○保健分野

いつまでも元気で活躍できるエイジレス社会を築くため、生活習慣病の予防・改善、さらに、ロコモティブシンドロームの予防に継続的な取り組みを進めると共に、行政との連携も強化します。

○医療分野

織田病院と高島病院との入院医療の機能分化・連携を推進し、急性期・回復期・慢性期機能の垂直連携の強化を図ります。さらに、退院後はケアの継続を図るため地域の医療機関や介護サービスとの水平連携を推進し、地域包括ケアシステムを全面的にバックアップします。また、業務効率化のためDXを本格的に推進します。

○介護分野

いつまでも安心して在宅での暮らしができるように地域包括ケアシステムを全面的にバックアップします。そのためにも各種介護サービスが機能的・効率的に連携できるように、情報の一元化・共有化を図り、業務のDXを推進します。

病院機能評価受審を終えて

病院機能評価準備委員会 宮崎 公志



早いもので前回の受審から5年が経過し、2023年9月12日・13日に病院機能評価の訪問審査を無事終えることができました。当院は1998年に佐賀県初となる認定を受けて今回で6回目（一般病院I:3rdGVer3.0）の更新となりました。病院機能評価は、病院の提供する医療サービスの質を保証し改善するための重要なプロセスで、病院が患者中心の医療を推進し良質な医療を実践しているかを、日本医療機能評価機構によって評価されます。今回の審査では、審査初日に「カルテレ

ビュー」（過去の退院患者から10症例を選びカルテ記載の内容を確認する）が新しく追加されましたが、その他の項目は大きくは変わらない内容でした。これまで同様に受審の前年度の4月に機能評価準備委員会を立ち上げ準備に取り掛かりました。が、新型コロナウイルス感染症への対応が最優先となり、これまでのように準備が思うようにできない中で、何とか締め切りまでに自己評価表提出や訪問審査の準備を終えることができました。訪問審査当日は各担当スタッフが十分な説明やアピールを行うことができていたのではないのでしょうか。その成果として11月に届いた中間結果（表1）では、S評価が新たに3項目増え8項目となり、B評価は9項目から4項目と減少、総合的に前回を上回る評価を得ることが出来ました。ただ今回は改善要望事項として「ホルマリン使用場所の換気」について指摘を受けました。12月にはその対応として作業場の換気扇の改修と作業環境測定を終え改善されたことを評価機構へ報告いたしました。



受審することに各項目で新たな取り組みや質の改善が図られています。これは各部署・スタッフ一同が、継続的な改善に取り組み質の高い医療を提供していることの証です。大変忙しかった新型コロナウイルス診療と平行して、受審準備をお疲れ様でした。最終評価を楽しみに待ちたいと思います。

表1 中間結果と前回評価

	S	A	B	改善要望事項
今回 (2023年)	8	74	4	1
前回 (2018年)	5	74	9	0

ICTを活用した「在宅見守りシステム」

連携センター課長 原 和行

当院における85歳以上の救急患者・新規入院患者は年々増加しているが、平均在院日数は11・8日（2022年度）と短いため、急性期病床から直接在宅復帰する患者も少なくない。当院では退院後の在宅生活を支援するために、「治す医療」から「治し支える医療」への取り組みを展開している。その一つが、家（患者宅）を病棟の一部と考え、入院中に「フラット型チーム医療」で提供されるケアを、退院直後の在宅に繋げ継続支援する「メディカルベースキャンプ」（MBC）である。メンバーは、医師、訪問看護師、介護支援専門員（ケアマネージャー）、MSW、理学療法士（PT）、ヘルパーなど多職種で構成されており、高齢者の在宅療養支援・生活支援に取り組んでいる。



置して見守り・声かけを開始。さらに2020年12月からは、呼吸・心拍・眠りを把握するパラマウント社

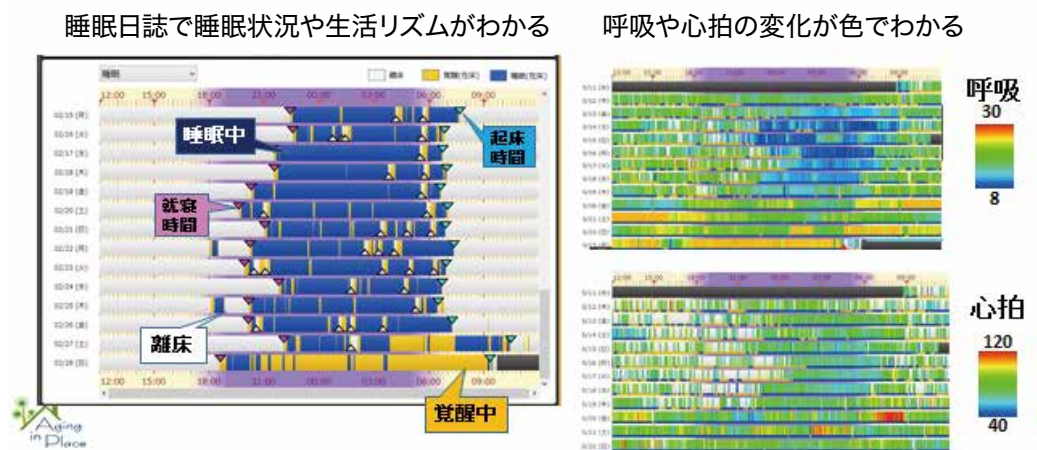
の「眠りSCAN」を導入してシステムを強化した。

①病床稼働モニター：1週間後までの入院予定患者情報と病床稼働状況がリアルタイムに更新されるため、その動向を確認しながら入院・在宅連携の調整を行なう。

②動態管理モニター：訪問看護、訪問介護全利用者宅を地図上に表示、その日訪問予定の居宅は青表示し、訪問が終了すればチェックマークに切り替わる。また、訪問スタッフが今どこに訪問しているかリアルタイムで把握できるようになっており、緊急時対応などにも寄与している。

③眠りスキャン：MBC利用患者の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで観察できる。呼吸数や心拍数の変化を色の变化で表示し、異常を一目で把握できる。異常を検知するとアラートでも知らせ、動態管理モニターとも連動している。また、全訪問スタッフが常時携帯しているタブレットでもこの情報をいつでも確認できる。また主治医との情報共有ツールとして、オンライン診療にも活用している。

これからの「治し支える医療」構築のためには、ICTの活用は必要不可欠である。これからも、より良い地域医療介護の実現に向けて、在宅見守りシステムの充実に努めていきたい。



第28回 ゆうあい研究発表会 ～QC発表～



令和5年11月15日(水)、第28回ゆうあい研究発表会(QC発表)を開催しました。本年はリアル開催ということで、鹿島市生涯学習センター・エプールのホールと研修室の2会場で病院とゆうあい合計24演題の発表を行いました。平日の勤務終了後ではありましたが、会場には多くの皆さんが集まり、同一法人となった高島病院からもたくさんの方が参加してくれました。各部署の改善はどれも自部署の参考になるような内容で、QC委員会の乗田委員長の言葉にもあったように、各部署「改善の成果を分け合えた」充実した発表会になったと思います。

●Group A 【DXデジタル化の活用】 座長: 吉原 沙紀(3階病棟主任)			
1	マイナンバーカードによるオンライン資格確認の利用を増やそう	医事課	西野 辰也
2	ナースコールを減らそう!	4階病棟	行武 涼子
3	デジタル化で備品管理を簡略化	3階病棟	小濱 悦子
4	AIシステムを活用した業務改善	ゆうあい介護保険サービス・事務	野中 繁昇
●Group B 【患者利用者ケアの充実】 座長: 三原 悠輔(リハビリテーション科主任)			
1	どうする?せん妄に対する薬物療法!～指示簿の薬剤のアップデート～	薬剤科	奥野 将
2	周手術期の体温管理	外来・手術センター	西岡 葉子
3	保湿ケアの充実で皮膚トラブル改善	ゆうあい2階療養棟	小ヶ倉 真一郎
4	あらためて寄り添える介護とは!	レジデンスゆうあい	植松 葵
●Group C 【業務の安全確保に向けて】 座長: 田島 悦子(2階療養棟主任)			
1	ヒヤリハットから重大なアクシデントを防ごう!～危険を察知!～	医療秘書課	岡 美沙子
2	重大事故0(ゼロ)を目指して	ゆうあい機能訓練室	吉岡 玄樹
3	どうするトロミキサー食(均一化と安全性の向上を目指して)	ゆうあい栄養科	宮崎 真由
4	リフトを不安なく使うためには?	グループホーム3丁目	中島 優介
●Group D 【時間短縮に向けて】 座長: 坂田 善和(診療支援部主任)			
1	心電図件数調査の時間の短縮	診療支援部検査科	清永 依央
2	乳癌術後患者のCT室滞在時間の短縮 ～CT室の回転率向上を目指して～	診療支援部放射線科	古川 遼
3	どうするTime Management	ヘルパーステーションゆうあい	古賀 妙子
4	遅出業務の改善	栄養食事サービス部	岩永 明日香
●Group E 【時間の有効活用】 座長: 山下 のぞみ(機能訓練室主任)			
1	面会時間の活用～家族との言葉のキャッチボール～	リハビリテーション科	村元 雅弥
2	カンファレンス内容の見直し～有効なカンファレンスへ向けた第一歩～	ゆうあい1階療養棟	綾香 智輝
3	勉強会をするために、まとまった時間を確保しよう!	小規模多機能ホームサテライト	岡 彩結美
4	どうする連絡帳	通所リハビリテーションゆうあい	中山 亜耶
●Group F 【業務の安全確保に向けて】 座長: 大迫 亜恵美(小規模多機能ホーム主任)			
1	コロナワクチン接種の予約管理	健康管理センター	高尾 知子
2	小規模デイサービスの活動って何?	デイサービスゆうあい古枝	野口 竜治
3	どうする相談会	小規模多機能ホームゆうあい	中島 早苗
4	介護支援等連携指導料算定アップへの取り組み	連携センター	峯 みちる



2階ホール

最優秀演題賞
最多得票賞



デジタル化で備品管理を簡略化

3階病棟 小濱 悦子

私は織田病院に勤務して34年になります。病棟の備品チェックは自分の仕事と思い長年1人で続けてきました。今回師長から備品管理がパソコンでできないかと提案があり、デジタルに強い竹内さんと一緒に取り組むことになりました。備品の洗い出しの後、バーコード作成からデータ管理まで竹内さんが色々考え、私は言われるがまま一緒にやっただけでした。まさか満票で最優秀賞を頂けるとは、正直私達自身が一番驚いています。このシステムが法人内で広く使われるようになれば、業務の軽減に大きなメリットがあると考えています。

優秀賞



乳癌術後患者のCT室滞在時間の短縮 ～CT室の回転率向上を目指して～

診療支援部放射線科 古川 遼

今回のQC活動では、放射線科スタッフ、医師、外来看護師など多くのスタッフの力を借りて優秀賞をいただくことが出来ました。協力して頂いた方々に感謝をし、これからも患者様第一に考えた検査を提供したいと考えています。

優秀賞



保湿ケアの充実で皮膚トラブル改善

ゆうあい2階療養棟 小ヶ倉 真一郎

今回は、このような素敵な賞を頂くことができ、大変光栄に思います。

今年もコロナ対応のため色々な制限があり、QCの活動がなかなかしづらい状況もありましたが、2階療養棟スタッフの皆様の協力で良い結果を出すことができました。今後もこの活動を継続し、より充実させていきたいと思っています。この度は誠にありがとうございました。



研修室

RPA導入

情報管理室 寺井 一色



自動データチェック

集計帳票の自動作成

印刷の自動処理

RPAとは「Robotic Process Automation」の略語であり、人が日常的に行っている作業を、人が実行するのと同じ形で複数のシステムやアプリケーションを操作して自動化するソフトウェアです。

RPAに作業を行わせることで人為的なミスはなくなり、業務の効率化に加え、業務の質の向上にも繋がります。

当院では、RPAでも可能な定形業務の増加に対する対策として、また、将来の人手不足が進む前に、人にしか出来ない業務に人材を集中させる環境を作るための対策としてRPA導入が決定しました。

RPA導入後半年間で、医事課だけで48業務分、病院全体では合計64業務分を自動化、年間換算で約1350時間を自動化しました。RPAの稼働により医事課では一ヶ月の残業時間が約44時間削減されました。

そのほかにも、看護必要度のデータ作成、退院指導対象者リストの作成などの自動化を開始、薬剤科や栄養科での指導・算定漏れ防止チェックも自動化しています。

今後は、ゆうあいや高島病院の定型業務もRPAに置き換えていけるように、開発人材の育成・教育を行い、法人全体での運用を目指します。



職員やりがい度調査の結果を受けて

事務管理部主任 牛島久美子

当院では、働きやすい職場づくりと職員満足度の向上を目的として、定期的に職員やりがい度調査を行い、その結果を受けて労働条件改善や福利厚生充実に取り組んできました。

今回は令和5年5月に、職員やりがい度調査を実施しました。結果は全項目において高い数値で、特に「雰囲気や人間関係」「仕事のやりがい」「医療介護の質」「学習や成長」の項目については、全国平均値を大きく上回る結果となりました。

当院の良いところとしては、約半数の方から、「人間関係・多職種連携が良い」というご意見をいただきました。これに関しては、院内で職員の方とすれ違うと気持ちの良い挨拶が返ってきますし、風通しが良く部署間の壁がない意思疎通のしやすい職場だと私自身も感じています。

また、同調査で頂いた不満や改善してほしい点についてのご意見をもとに、法人全体の『業務負担軽減』と『福利厚生の充実』に取り組んでいます。『業務負担軽減』については、令和5年6月よりRPA (Robotic Process Automation)を導入し事務作業の自動化を進めています。現在、医事課や連携センターの業務を中心にRPAに移行していますが、今後は他部署にも順次拡大し業務負担軽減を図ります。『福利厚生の充実』については、新型コロナウイルス感染症拡大により中断し

ていた誕生日休暇制度（誕生日月に連続三日間の休暇+誕生日祝い金）を再開します。コロナ禍で思うように有休が取れなかった職員の方にも、気兼ねなく有休を取得していただきたいと思います。

令和5年4月に高島病院・清涼荘が同一法人となり、現在祐愛会は職員数735名（令和5年12月1日時点）となりました。子育てや家族の介護をしている職員、外国人の職員など、様々な環境の職員が在籍していますが、職員の多様性を尊重し、「お互い様の精神」で、みなさんが働きやすく、そしてやりがいを持って働ける職場づくりに努めていきます。



～魅力ある職場を目指して～

ロコモティブシンドローム予防

リハビリテーション科 鬼村 妃世

みなさんもロコモという言葉をお聞きしたことがあるかと思います。運動機能が衰えて移動能力の低下を来している状態のことを「ロコモ」といいます。コロナ禍で外出や運動の機会が減少し、気付かないうちに運動機能の低下が生じているかもしれません。そこで、今年度より職員健康診断でロコモ度テストを取り入れて、運動の意識付けやロコモ予防に取り組むことになりました。簡単にロコモのチェックができる「7つのロコモチェック」に加えて、立ち上がりテストと2ステップの2種類を行います。

ロコモの可能性をみる「7つのロコモチェック」

こんな状態は要注意！
チェックしよう
7つのロコモチェック
該当項目がひとつでもあるとロコモの可能性が
あります。

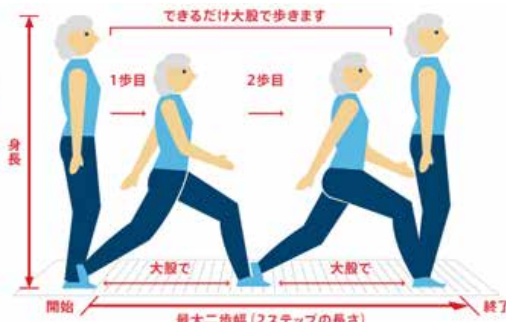
1	片脚立ちで 膝下がはけない	2	家の中でつまずいたり、 すべったりする	3	階段を上がるのに 手すりが必要である		
4	家のやや重い仕事が 困難である (掃除機の使用、 布団の上げ下ろしなど)	5	2kg程度の重い物をして、 持ち帰るのが困難である (1リットルの牛乳パック 2個程度)	6	15分くらい続けて 歩くことができない	7	横断歩道を青信号で 渡りきれない

出典：日本整形外科学会「ロコモパンフレット2020年度版」より

立ち上がりテスト



2ステップテスト



$$2\text{歩幅}(\text{cm}) \div \text{身長}(\text{cm}) = 2\text{ステップ値}$$



「40cmの高さから片脚で立ち上がれない」または「2ステップ値が1.3未満」の方はロコモ度1。
「20cmの高さから両脚で立ち上がれない」または「2ステップ値が1.1未満」の方はロコモ度2。
と判定されます。

★ロコモ度1：移動機能の低下が始まっている状態（筋力やバランス力が落ち始める）

★ロコモ度2：移動機能の低下が進行している状態（生活に支障が出てくる可能性が高くなる）

ロコモ予防・改善に有効な4種類の運動を紹介します。気になった方はぜひ継続してみてください。

スクワット



ゆっくり10回の繰り返しを1セット
1日3セット

片脚立位



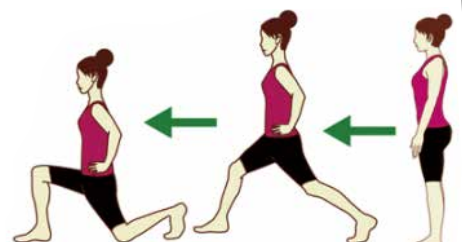
左右1分ずつ
1日3セット

踵上げ



ゆっくり10～20回を1セット
1日3セット

フロントラウンジ



左右5～10回を1セット
1日3セット

令和5年度 祐愛会忘年会 in ハウステンボス

事務管理部 社頭 雅也

新型コロナウイルスが猛威を振るったこの4年間、当法人ではzoomを用いたオンライン形式の忘年会を開催してきましたが、ようやく令和5年12月2日、リアル忘年会を開催することが出来ました。会場は長崎県佐世保市のハウステンボス(タワーシティプラザ)。理事長挨拶に始まり、ゆうあい研究発表会(QC)表彰、乾杯挨拶、ゆうあい一座と高島病院のコラボ余興(どじょうすくい、オヨネーズ:麦畑)、ピアノとフルート/サクソ2重奏、閉会挨拶という流れで進行しました。久々のリアル開催で、

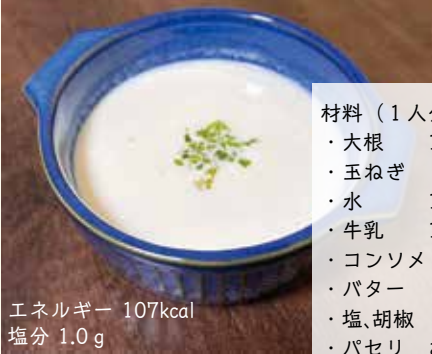
ハウステンボスの美味しい食事や飲み物を堪能、スタッフ同士の楽しい会話で会場が満たされました。12月のハウステンボスは、美しいクリスマスイルミネーションに彩られ、皆さん楽しい散策を楽しまれたことと思います。今回、久々のリアル忘年会が無事に開催でき、ほっとするとともに大変うれしく思っています。準備や当日の運営に携わっていただいたスタッフ、ハウステンボスのスタッフ、そして参加していただいた皆様に感謝します。



栄養科便利

寒い季節にぴったり、ヘルシーでお手軽。体が温まる簡単レシピを紹介します。

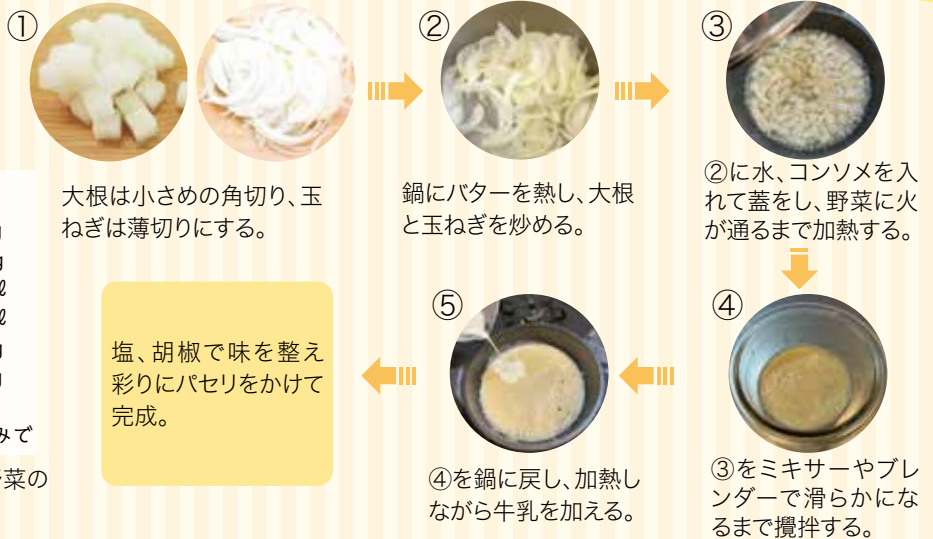
☆だいこんポタージュ



エネルギー 107kcal
塩分 1.0g

材料(1人分)
・大根 100g
・玉ねぎ 25g
・水 100ml
・牛乳 100ml
・コンソメ 2g
・バター 2.5g
・塩、胡椒 適量
・パセリ お好みで

他の野菜でも美味しく作れます。季節ごとの野菜の味を楽しむスープです♪



今年度は病院機能評価受審(6回目更新)という昨年から準備してきた一大イベントを無事に終了することができました(※2ページ参照)。コロナ禍で部署間のコミュニケーションがやや疎遠になりつつあると感じていましたが、いざという時には一致団結して一丸となり取り組むスタッフの結びつきは、祐愛会の誇れるところだと、改めて感じる事ができました。今年度から祐愛会グループに加わった高島病院の皆さんも、各種グループ行事に参加していただき、顔を合わせる機会も増えました。これからより一層結びつきを深めていけるものと期待しています。

編集後記

診療支援部放射線科 坂田善和

合格おめでとう(2023年4月~12月)

氏名	部署名	資格(試験)名称	資格取得(合格)日
土岐 幸子	(栄養食事サービス部)	病態栄養専門管理栄養士	2023.4.1
松田 瑠菜	(リハビリテーション科)	福祉住環境コーディネーター検定試験2級	2023.11.17
江頭 美子	(DS旭ヶ岡)	介護福祉士	2023.4
隈部真理子	(DS谷所)	介護福祉士	2023.4
森永 彩夏	(小規模多機能ホームサテライトゆうあい)	介護福祉士	2023.4
柿原佐知子	(小規模多機能ホームサテライトゆうあい)	介護支援専門員	2023.12
岡 佐結美	(小規模多機能ホームサテライトゆうあい)	介護支援専門員	2023.12